

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2004-073587
 (43)Date of publication of application : 11.03.2004

(51)Int.Cl. A47G 9/02

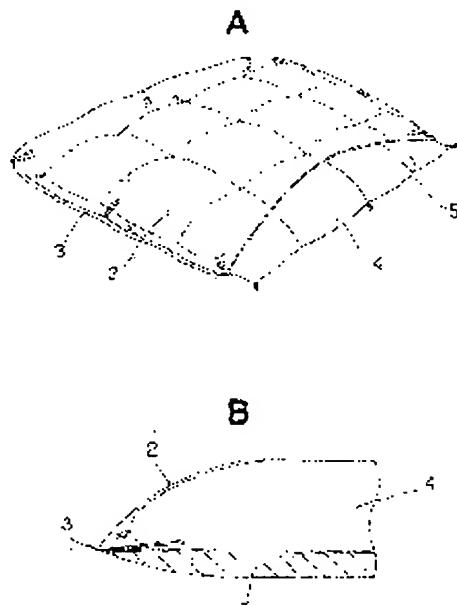
(21)Application number : 2002-239787 (71)Applicant : ORIMOTO:KK
 (22)Date of filing : 20.08.2002 (72)Inventor : KOMATA KEISUKE

(54) QUILT FOR COMBINED USE IN SUMMER AND IN WINTER

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a quilt for a combined use in summer and in winter formed to be selectively used according to seasons as the summer quilt with excellence in air permeability and a hygroscopicity in a summer season and as the quilt with excellence in a heat retaining property in a winter season.

SOLUTION: A cover 2 covering one face of a quilt layer 1 is laid on the quilt layer 1 with excellence in the air permeability and the hygroscopicity and thinness, and a peripheral part 3 thereof is sewn. A bag space is formed of the cover 2 and the quilt layer 1. The peripheral parts 3 of the quilt layer 1 and the cover 2 are openably/closably formed so as to house the quilt 4 excellent in the heat retaining property into the space.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 22.08.2005

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

BEST AVAILABLE COPY

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-73587

(P2004-73587A)

(43) 公開日 平成16年3月11日(2004.3.11)

(51) Int.Cl.⁷
A 47 G 9/02F 1
A 47 G 9/02A
3 B 1 O 2

テーマコード(参考)

審査請求 未請求 請求項の数 4 ○ L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2002-239787 (P2002-239787)
(22) 出願日 平成14年8月20日 (2002.8.20)(71) 出願人 000146526
株式会社織元
山梨県都留市つる1丁目5番8号
(74) 代理人 100084571
弁理士 平野 玄陽
(72) 発明者 小俣 恵右
山梨県都留市つる1丁目5番8号 株式会
社織元内
Fターム(参考) 3B102 BA02

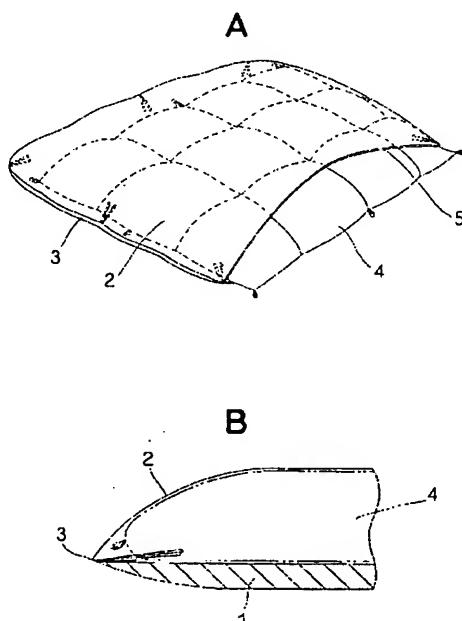
(54) 【発明の名称】夏冬兼用型掛けふとん

(57) 【要約】

【課題】夏期は通気性や吸湿性の良い夏掛けとして、又冬期は保温性の良い掛けふとんとして、季節に応じて選択使用できるよう形成した夏冬兼用型掛けふとんを提供する。

【解決手段】通気性や吸湿性に優れた薄手のふとん層1に、このふとん層1の一方の面を覆うカバー2を重ねて周縁部3を縫い付ける。このカバー2と上記のふとん層1ことで袋状のスペースを形成する。このスペースに、保温性に優れた掛けふとん4を収納せしめるため、ふとん層1とカバー2との周縁部3を開閉自在に形成する。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

通気性や吸湿性に優れた薄手のふとん層に、このふとん層の一方の面を覆うカバーが重ねられて周縁部が縫い付けられ、このカバーと上記のふとん層とで袋状のスペースが形成され、このスペースに、保温性に優れた掛けふとんを収納させるため、ふとん層とカバーとの周縁部が開閉自在に形成されていることを特徴とする夏冬兼用型掛けふとん。

【請求項 2】

請求項 1 記載の夏冬兼用型掛けふとんであって、ふとん層とカバーの長手方向の一辺に、開閉用のファスナーが設けられ、これによりふとん層とカバーとの周縁部が開閉自在に形成されていることを特徴とする夏冬兼用型掛けふとん。 10

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 記載の夏冬兼用型掛けふとんであって、カバーがレースで形成されていることを特徴とする夏冬兼用型掛けふとん。

【請求項 4】

請求項 1 又は 2 記載の夏冬兼用型掛けふとんであって、カバーがメッシュ状の生地で形成されていることを特徴とする夏冬兼用型掛けふとん。

【発明の詳細な説明】**【0001】****【発明の属する技術分野】**

本発明は、掛けふとんに関し、更に詳しくは暑い時期は夏掛けとして使用でき、冬期は保温性を有する状態で使用できるよう形成した夏冬兼用型掛けふとんに関するものである。 20

【0002】**【従来の技術】**

従来、掛けふとんは、通常、夏物と冬物とに分けられ、夏物は通気性や吸湿性、吸汗性に優れた生地等を用いて形成され、冬物は保温性を重視して形成されている。従って従来品によると、夏物と冬物との二種類を保管するスペースが必要になり、又季節の変わり目などに入れ替える煩わしさがあった。

【0003】

そこでこの種の不便を解消するため、敷きふとんについては、従来、夏と冬とで表側と裏側を選択的に使用できるよう、一方の面を保温性の良い生地材で、他方の面を通気性や吸湿性の良い生地材で形成したものがある（例えば特開平10-75852号公報参照）。 30

【0004】**【発明が解決しようとする課題】**

しかしながら掛けふとんの場合は、身体にかけて使用するものであるから、表側と裏側の生地を上記の敷きふとんのように違えて形成しても、特に夏の暑い時期には使用できないものである。

従って従来、掛けふとんについては、快適な睡眠を得るため、夏用と冬用とを使い分けていたのが実情であった。

【0005】

本発明は、このような従来の実情に鑑み、提案されたものである。 40

従って本発明の技術的課題は、夏期は通気性や吸湿性の良い夏掛けとして、又冬期は保温性の良い掛けふとんとして、季節に応じて選択使用できるよう形成した夏冬兼用型掛けふとんを提供することにある。

【0006】**【課題を解決するための手段】**

本発明は、上記の課題を解決するため、次のような技術的手段を探る。

【0007】

即ち本発明は、図 1 等に示されるように、通気性や吸湿性に優れた薄手のふとん層 1 に、このふとん層 1 の一方の面を覆うカバー 2 が重ねられて周縁部 3 が縫い付けられ、このカバー 2 と上記のふとん層 1 とで袋状のスペースが形成され、このスペースに、保温性に優 50

れた掛けふとん4を収納させるため、ふとん層1とカバー2との周縁部3が開閉自在に形成されていることを特徴とする（請求項1）。

【0008】

ここで、薄手のふとん層1とは、夏期の使用に好適なよう形成されているふとん部を意味し、具体的には袋状に縫製された生地部に、羽毛やフェザーを収納させて形成したり、或いはタオルケットで形成することにより実現される。又保温性に優れた掛けふとん4とは、例えば手持ちの冬物の掛けふとんを意味する。

【0009】

又本発明の場合は、ふとん層1とカバー2の長手方向の一辺に、開閉用のファスナー5が設けられ、これによりふとん層1とカバー2との周縁部3が開閉自在に形成されているのが好ましい（請求項2）。

10

【0010】

なぜならこれによると、ふとん層1とカバー2の短辺部にファスナー5が設けられる場合に比べ、ふとんの出し入れが容易になり、使い勝手が良くなるからである。

【0011】

又本発明の場合、カバー2は、レースやメッシュ状の生地で形成されているのが好ましい（請求項3、請求項4）。

【0012】

なぜならこれによると、ふとん層1や、袋状のスペースに収納する掛けふとん4を外部から見ることができ、体裁が良くなるだけではなく、ふとん層1の通気性や吸湿性、吸汗性を確保しやすいからである。

20

【0013】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の好適な一実施形態を添付図面に従って説明する。

【0014】

図1等において、1は、通気性や吸湿性に優れた薄手のふとん層である。このふとん層1は、この実施形態では袋状に縫製された生地部に、羽毛が90%、フェザーが10%の割合で収納されて形成されている。

30

【0015】

2は、ふとん層1の一方の面を覆うカバーである。このカバー2は、この実施形態ではレースで形成され、ふとん層1に重ねられて周縁部3が縫い付けられている。ふとん層1とカバー2のサイズは、この実施形態では長手方向の幅が210cm、短手方向の幅が150cmに選定されている。

【0016】

4は、保温性に優れた掛けふとんである。本発明では、カバー2とふとん層1とが形成される袋状のスペースに、掛けふとん4を収納させるため、ふとん層1とカバー2との周縁部3が開閉自在に形成されている。この実施形態では、ふとん層1とカバー2の長手方向の一辺に開閉用のファスナー5が設けられ、このファスナー5を操作することによりふとん層1とカバー2との周縁部3が開閉自在に形成されている。

40

【0017】

次に本発明品の使用例を説明する。

【0018】

本発明品の場合、夏期は、ふとん層1とカバー2の状態で夏掛けとして使用する。ふとん層1とカバー2は、ともに通気性や吸湿性に優れているため、これによると夏の暑い時期でも快適な眠りを保証できる。又本発明品は、ふとん層1とカバー2とが一体化している。従ってこれによると、使用時にふとん層1をあらためて覆う必要がなく、洗濯を容易にでき、又個別にふとんカバーを購入する煩わしさがない。

【0019】

又冬期は、ファスナー5を開閉して、ふとん層1とカバー2の間のスペースに、保温性に優れた掛けふとん4を収納させる。保温性に優れた掛けふとん4は、手持ちの冬物の掛け

50

ふとんを用いる。これにより本発明品は、ふとん層1、掛けふとん4、カバー2の三層状に形成され、掛けふとん4によって保温性が高まり、冬期の安眠を保証する。

【0020】

【発明の効果】

以上説明したように本発明は、通気性や吸湿性に優れた薄手のふとん層に、このふとん層の一方の面を覆うカバーを重ねて周縁部を縫い付け、このカバーと上記のふとん層とで袋状のスペースを形成し、このスペースに、保温性に優れた掛けふとんを収納させるため、ふとん層とカバーとの周縁部を開閉自在に形成しているものである。

【0021】

従って本発明品の場合は、夏掛けとして、又保温性が必要なときは冬物用として選択使用できるから、これによれば夏冬何れの季節でも使用でき、又保管スペースを半減できる。

10

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明掛けふとんの好適な一実施形態を示し、Aは使用状態を説明するための斜視図、Bは図3のI—I線における要部拡大断面図である。

10

【図2】同上掛けふとんの斜視図である。

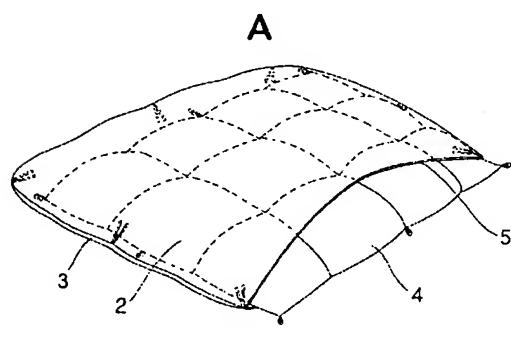
20

【図3】同上掛けふとんの一部を切欠した平面図である。

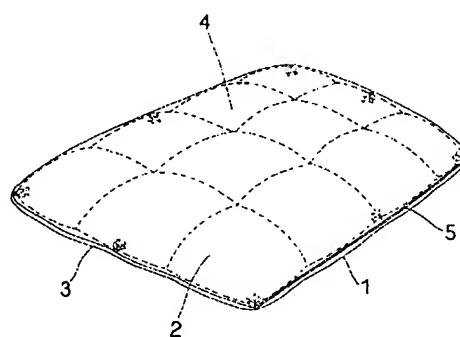
【符号の説明】

- 1 ふとん層
- 2 カバー
- 3 周縁部
- 4 保温性に優れた掛けふとん
- 5 ファスナー

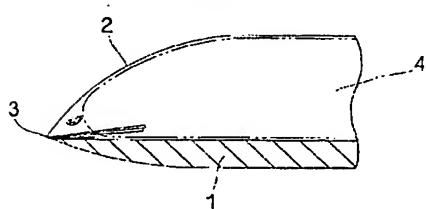
【図1】



【図2】



B



【図 3】

